

これまでの放送

第40回 2007年2月8日放送

◀ **これまでの放送TOP** ▶ プロフェッショナルの道具

出過ぎた杭は誰にも打てない
コンピューター研究者・石井裕



石井の研究は常にオリジナリティにあふれている

オリジナルこそ、命

MITの教授は常に競争にさらされている。実績があっても大きな成果を生み出し続けなければ、生き残れない熾烈（しれつ）な現場だ。その中で石井が最も重視しているのは、研究のオリジナリティ。既にある研究の改良や性能の改善は、決して行わない。誰もやっていない新しい研究を目指し、石井は挑戦を続ける。



石井は、議論をするとき、何度も何度も同じ問いかけを行う

WHY? (なぜ)

ともに研究を行う学生たちと議論をする時、石井は「WHY? (なぜ)」と何度も問う。「なぜ?」という問いは、その研究の根本を問いかける質問だと考えているからだ。繰り返される問いかけにきちんと答えられなければ、まだそのアイデアは十分に練られていないと石井は判断する。アイデアを磨き、インパクトのある物にするために欠かせない、大切な問いかけだ。



石井は研究所の誰よりも努力を惜しまない

自分は凡人

天才たちが集うコンピューター業界。その中で石井は、自らを特別な人間だとは考えていない。むしろ凡人であると考えている。天才たちの中で認められるため、石井は同僚の2倍働き、3倍の成果を出す事を自らに課している。MITメディアラボで最も忙しく働く男、石井はそう呼ばれている。



自分のアイデアを愛するあまり客観的に見られない学生に、石井はあえて厳しく接する

越えるべき壁は、自分

研究者は自分の考えたアイデアを愛する。しかし、そのアイデアを本物の技術にまで高めるためには、そのアイデアを客観的に見つめる視線が必要だと石井は考える。そこで、最も大きな壁になるのが「自分自身」だ。自らのアイデアにプライドを持つ研究者たちにとって、弱点を認めるのは難しい事だ。しかし、自らのプライドを捨て、自分に打ち勝つために、石井はあえて厳しい言葉をぶつける。

プロフェッショナルとは …

『自分がこの世からいなくなったあと、その未来の世界にどのような影響を与えられるか、インパクトを残せるか。そこまで真剣に考えられる人だと思います。』

石井 裕

Page Top